

「遺骨」で基地を作る?! — 映像とお話でまなぶ学習会 —

「遺骨埋め立て問題を



(左) 島の影れ目にあった遺骨。2005年、沖縄本島南部 (右) 埋め立てが進む辺野古沖2020



沖縄・



より深く知るために」

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/74280>
東京新聞記事
『辺野古埋め立てに「激戦地の土砂」検討、多数の遺骨混入の恐れ 土砂投入2年』2020年12/15より

沖縄には、75年前の沖縄戦で犠牲になった多くの人々の遺骨が収容されずに残っています。今、日本政府が辺野古の新基地を埋め立てる為に沖縄南部の土砂を採取し、その遺骨を基地の「埋め立て材料」としようとしているのをご存じでしょうか。これがいったいどういうことなのか。関連するドキュメンタリー映像を見、沖縄出身のとうなち隆子さんにお話を伺います。ぜひ、ご参加ください。

◎日時:2021年 10月29日(金)19:00~21:00

◎会場:エルプラザ2階 環境研修室(札幌市北区北8西3 札幌駅地下直結) ◎参加費:カンパ制

◎ご予約・お問合せ:whats.everything@gmail.com

主催:what's <https://whats-everything.jimdofree.com/>



What's

お話:とうなち隆子(とうなちたかこ)
沖縄基地を考える会・札幌代表
1950年 浦添村城間キャンプキンザーゲート前にて生まれる。1964年に初めて本土大阪に交流学生で行く。1968年 東京へ留学(当時はアメリカの占領下にあったため、パスポートが必要だった)。1972年 日本復帰大学3年生東京にて経験 1975年から北海道在住。沖縄の状況を知ってもらうために、活動を続けている。

※写真左 2021/1/31:朝日論座「沖縄戦遺骨眠る土まで頼る辺野古沖埋め立て 菅内閣3つの欺瞞」写真中央&右:沖縄県HPより。